

カレッジ通信

編集・発行

東京建築カレッジ

授業見学
大歓迎！Tel 03
(5950)
1771

持続可能な町の工務店をめざして

建築カレッジで後継ぎを育てるという選択

来春入学のご相談を
歓迎します！

東京建築カレッジ（以下カレッジ）は、町の工務店の後継ぎづくりにも役立っています。家族経営の小規模な事業所では親と一緒に働き始めた子どもの教育の場として本校を選ぶ事例が少なくありません。建築の基礎的な知識や技術・技能の学習とともに、同世代の仲間との出会い、家業の未来をひらくためにどうしたら良いか、という自分への問いかけがカレッジでは得られます。大工以外の職種、設計、塗装、防水、建具など各専門職でも後継ぎ教育で利用しています。家族経営の小規模事業所の皆さん、お気軽にご相談ください。

造園から大工へ

今年の入学生、第25期生のうち、持続可能な工務店をめざして、後継ぎ候補を入学させた事例を紹介します。

石田凌さんは、高卒後、

造園業で働いていましたが、実家の石田工務店（葛飾区）に戻り、大工をしています。「現場や俺といえるだけでは学べないことを習得してほしい」と親方である父から勧められてカレッジに入学し

ました。石田さんには将来の夢があります。「手間請けに安住するのではなく、お客様と直接対話できる元請けになり、地域の人のびとから信頼できる工務店をつくりたい」という夢です。大工技術の実習はもちろん、製図設計、情報処理、教養科目など、すべての授業を貪欲に学んでいます。

高松勇樹さんは、大学卒業後、大手住宅設備機器メーカーで勤務した後、実家の高松工務店（多摩市）に入り、大工としての修行をしています。環境にやさしい家づくりの考え方を学科授業で学ぶと、感想レポートに「解体と新築の繰り返しだけでは無い道を追求したい」と書きました。ただ、そのためには、「（業界は）もっと時代についていくべき」と言います。「新しいものを取り入れるのが怖いと感じている人が多いと思います。私はその文化を変えたい」。業界革新の思いを秘めながら、伝統的な大工技術や建築の基礎知識の習

同期の仲間たちが互いの個性を認め合いながら、快適に学校生活が過ごせるよう気を配っています。マネジメント力が問われます。工事に関わる様々な職種の人を束ねる「棟梁（とうりょう）」に必要な知識や技術も学んでいます。

祖父、父に続く

得に取り組んでいます。同世代の仲間と問題意識を交流しあうこと自体が工務店の未来をひらく第一歩と言えるでしょう。

高校卒業後、なんとなく大学進学を考えていた

筒井啓翔さんは、高校3年の夏に祖父や父の後を継ぎ大工になる決心をしました。豊栄工務店（葛飾区）で働き始めると同時にカレッジ入学。「今はまだできないことが多く嫌になることが多いですが、耐えて立派な大工になる」と話しています。

カレッジでは同じ思いで頑張っている仲間に出会えます。筒井さんの初心を応援する環境を提供しています。

入学案内・募集要項

はこちらに！

お問い合わせは
お気軽に！



学校公式
サイトの
アクセス



上から、石田凌さん、高松勇樹さん、筒井啓翔さん（共に第25期生）

9月12日(土)第1回OJT合同報告会



司会進行、記録者、報告者も研修生が担います。

東京建築カレッジは、OJT（現場実習）も正規授業の一つです。研修生は毎月OJT月報を提出する一方、年3回の報告会を体験します。9月12日（土）には今年度の第1回合同報告会が開かれ、1年生（第25期生）3人、2年生（第24期生）2人が全体会で日頃の仕事の様子を発表しました。分散会には理事や講師・指導員も参加。研修生が司会や記録、報告係を分担するなど、会議の運営方法も学ぶ場です。

2年生の授業から

2年生後半は、規矩（きく）術（ぎく）の演習で大工技術学習の伝統的課題をこなし、「技能照査」試験を受けるという大きなハードルがあります。

「卒業制作」が取り組まれます。カレッジで学んでいることを生かすことを前提に自由テーマで、建築の夢

と可能性の表現に挑みます。このほど第4回の卒業ゼミが行われ、テーマがほぼ出そろいました。「犬小屋」、「仏壇」、「床の間」、「茶室」、「キャットタワー」といったテーマの方向性で図面の作成が進行中です。3月6日（土）発表会をめざし、時間とのたたかいがいよいよ本格化します。

「卒業制作」テーマがほぼ出揃いました。

1年生の授業から
第25期生（1年生）の授業では「木造軸組み実習（小屋組み実習）」が始まりました（江東実習場）。晩秋から冬にかけて行う「実習棟実習（木造軸組み構造による木造二階建て）」に向

けた準備学習です。現在の現場作業では学びにくい大工技術の基本をわかりやすい解説と丁寧な指導を受けながら学んでいきます。柱や梁の位置など建築構造上の重要な要素をベニヤ板に図面化した「板図」（伏図の一種で、「図板」「手板」とも呼ばれます）、伝統的な目盛りの付け方を見習った「尺杖（しゃくづえ）」、図面通りの高さになっているか現場で確認するための「矩計（かなばかり）」を作った後、材料選定、墨付け・刻み、組み上げという順で授業



授業は板図の作成から

は進みます。10月2日～3日に完成予定。11月から本格化する実習棟実習の予習的な位置づけもありま

な位置づけもありまは進みます。10月2日～3日に完成予定。11月から本格化する実習棟実習の予習的な位置づけもありま

ミニニュース

◆『monoマガジン』長野講師の最新作を紹介



本校の長野智雄講師（一級建築士、第4期生）が設計した作品が『monoマガジン』（ワールドフォトプレス）2020年9月16日号で紹介されました。今年竣工した調布市の「伝統家屋の利点を活かした木とコンクリートのハイブリッド邸宅」です。この号は「わがまま木の家」特集。ステイホーム、おうち時間、巣ごもり、、、が当たり前の言葉になった今、家時間をもっと楽しむために、木の家の魅力を探る、という趣旨で編集され、その中で、長野先生の力作が取り上げられています。ご注目ください。

◆「春夏秋冬のある暮らし エアコンに頼らない住まいづくりセミナー」

本校の金田正夫講師（＝写真、一級建築士、「無垢里一級建築士事務所」主宰）のzoom連続セミナー「春夏秋冬のある暮らし エアコンに頼らない住まいづくりセミナー」が始まりました。9月24日（木）から全7回で構成。丸善雄松堂主催、東京建築カレッジ後援です。「なるべく機械や工業材料を使わずに自然の法則を活かして住環境をつくるためにはどうしたらいいか、ユーザーも建築従事者も区別なく一緒に考えあう講座です。『高気密・高断熱による省エネ』とは真逆の『自然の法則を生かす省資源』の世界にご案内します」と金田講師。ご案内チラシはカレッジのサイトからダウンロードできます。

